

2011.02.04

## 春を待ち続ける骨董カップ

 担当:  
Rica

スウェーデンは今、とても厳しい冬を迎えています。歴史上記録的な寒波とも言われています。寒い日はマイナス20°Cを記録します。



私の住んでいる地域はストックホルムから郊外行きの汽車で17分ほど北に行った小さな町。家の裏には森が広がり、雪が降ると昔懐かしいポストカードで見た田舎の風景のようです。それぞれのお庭は広く、雪が幾重にも降り重なって、太陽の日が時々雪の表面を溶かしクリーミーなアイスクリームの表面を彷彿とさせます。まさに「おとぎの国」です。

冬の楽しみはやはり「お茶の時間」。一日に何度もお茶を楽しみます。手作りのお菓子とお茶で、スウェーデン人たちがこよなく愛する言葉「mysig(ミーシグ)-心地よい」を演出します。

そんなお茶の時間を演出する私の家のカップ&ソーサーのほとんどは、スウェーデンの陶器会社の1940代のヴィンテージ物。その時代のモチーフはスウェーデンの春を連想させるパターンモチーフが多く見受けられます。「へたうま」な、どこか可愛らしいモチーフが多いのが特徴です。



私のコレクションより。(左上から右下へ1~6として) 1&5はグスタフスヴェーリ-スティーグ・リンドベリーのカップ&ソーサー 2&3はハッケフォルシュ、1940年代の物 4「ロールストランド」&6(ブランド名不明)は1930-1940年代物

今回は、あまり日本では知られていないスウェーデンの陶器会社のお話。



スウェーデンにはいくつもの陶器会社があります。以前行きつけのマーケットで見つけた野花柄のカップ&ソーサーは1940年代のハッケフォルシュの陶器です(私物カラージュ写真No3&4)。ヨーテボリから北東方面のリードショーピングにある陶器会社。実業家のジョン・オー・ニルソンによって1929年にリンショーピングで設立されました。一時期は陶器を輸入したりしていましたがそれを止め、1934年から23年間新たにオリジナルの陶器の製造を始め、ヘルタ・ベントソンがパターンのデザイナーとして活躍した時代です。

その後彼女は若くして実績を出し、1941年にリードショーピングにあるロールストランドの陶器工場に移籍してしまいます。移籍後、彼女は日本でもおなじみの『Blå eld(ブルーエルド)-青い炎』深い海の底を思わせるような青に縄模様を施した彼女ならではの作品を発表します。数々の有名な作品が発表されたこの時代はスウェーデンの陶器デザイナーの黄金時代とも言えます。のち、ジョン・オー・ニルソンは1957年にハッケフォルシュの会社を売り、2007年ボスリンスファブリーケン・イ・リードショーピングアーベが所有するまではいくつかの会社を点々とすることに。

今現在でもハッケフォルシュの華奢なラインの野花柄は健在ですがオリジナルの陶器にオリジナルのパターンを描いていた30~40年代の作品はひと際、存在感のある光を放ちます。そして、その頃の陶器だけに付けられていたハッケフォルシュのスタンプ柄のデザインも必見です。時は流れても、未だに色あせないデザインのすばらしさには感動を覚えます。

そして待ち遠しい半年後の春に思いを馳せつつ、今日もまた、幸せなお茶の時間を楽しんでいます。



### WRITER PROFILE

Rica

ファッションデザイナー。ジュンアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シシリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド『Rosenkrona』を立ち上げ、北欧と日本で活動中 ([www.rosenkrona.com](http://www.rosenkrona.com))。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン&食、秘境の町&村めぐりなど興味は広範囲。